

富士山静岡空港の収支の概要

(交通基盤部空港局)

1 要 旨

富士山静岡空港は、道路や港湾と同様、県勢発展に不可欠な社会資本として整備したものであり、空港の利用が県民の利便性向上や経済活動に寄与できるよう利活用促進に努めている。

一方、昨年度から、空港収支に係る情報の透明性を確保する観点で、国に準じて公表している空港管理運営の収支について、今年度も平成22年度の収支状況を取りまとめたので報告する。

2 概 要

(1) 空港管理運営に係るキャッシュフローベースの収支

- ・着陸料等収入額は259百万円となったのに対して、空港の管理運営（人件費を含む）に係る支出額は672百万円となり、収支差額413百万円は一般財源を投入している。
- ・一般財源投入額は、平成21年度決算に比べて、25百万円改善したが、この主な要因は、着陸料等収入が9ヶ月分から12ヶ月分となったことによる。

(単位：百万円)

区 分	22年度 a	21年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収 入	259	206	53	25%
支 出	672	644	28	4%
収 支	△413	△438	25	5%

(2) その他の収支の試算

昨年度と同様に作成した4つのパターンの収支の試算結果は別紙のとおり。

(3) 今後の取組

世界的な景気の低迷や東日本大震災の影響により、航空事業を取り巻く状況は厳しい中であるが、引き続き、着陸回数増加、就航機材の大型化など利用拡大による収入確保を図るとともに空港管理経費の縮減に努めていく。

<参考>

○開港から1年間の地域経済波及効果（平成22年度調査・公表）

企業・産業への経済波及効果は245.5億円であり、空港が有する社会資本としての効果が明らかとなっている。

○東日本大震災時の災害対策支援の状況（平成23年3月～5月）

災害支援への受入21回、FDA航空機を活用した県災害派遣5回など、地震災害時における空港の防災支援拠点としての機能が示された。